



話題

NHK 認知症キャンペーン

日本では急速な高齢化に伴い認知症患者が急増しています。全ての人々が避けて通れない問題になったことを受けて、1年半前からNHKが「認知症になっても誰もが安心して暮らせる社会を作る」ためのキャンペーンを展開しています。今年の1月20日にはNHKスペシャルにおいて「認知症 なぜ見過ごされるのか～医療体制を問う」と題して、患者家族や専門家に加え、榊添厚生労働大臣も交えた討論会が放映されました。



家族からは、医者にちゃんと診断してもらえない、診断されても適切な治療が受けられないという問題が提起され、会場ではかかりつけ医がもっと認知症を勉強するよう、治療薬のアリセプトを使うよう要望する意見が多く出されました。番組では問診・認知機能テスト・脳画像検査の3点セットで明確な診断ガイドラインを定めるべきと提唱され、現場ではこのうちのつか二つで済まされているので認知症が見過ごされる実例が紹介されました。全体として、認知症が早期発見できないことは医療側の問題、適切な治療体制がないことは行政の責任という流れで番組は進みました。

この番組を観て2つの疑問を感じました。それはかかりつけ医が日常診療の中で認知症を早期に発見できるのかということと、アリセプト治療が絶対に必要なのかということです。認知症の早期発見はしばしば専門家でも困難です。患者さんと1対1で向き合い30分以上かかる認知機能検査を通して初めて異常を検出できることも少なくありません。かかりつけ医が日常診療の中で認知機能の小さな異常を見つけることは容易ではありません。認知症の早期診断は専門的な医療技術なのです。また、アリセプト治療で認知症が治るわけではありません。臨床的には効果を実感できないケースが多く、アリセプト治療を受けられないことが特に重要な問題とは思えないからです。

実際の問題として、この地域で認知症はどの程度“見過ごされる”のでしょうか？アリセプト治療はどの程度の効果があるのでしょうか？これらの疑問に対する答えを当院のデータから探ってみました。

問診・認知機能テスト・脳画像検査の3点セットにより、過去3年間に当院で認知症と診断した患者さんは81名でした。そのうち当院で“初めて”認知症と診断されたのは半数の41名でした。41名の患者さんの重症度と家族が発病に気付いてから受診に至るまでの期間を表に示します。

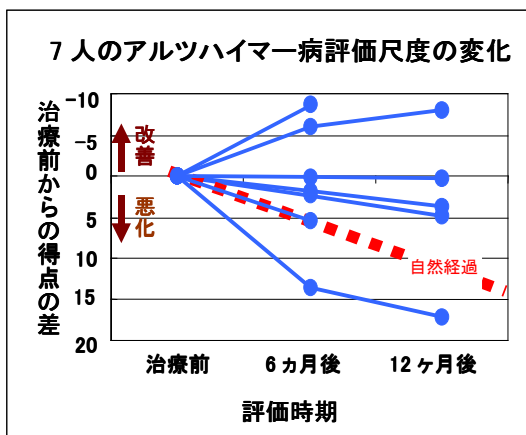
初めて認知症と診断された患者さんの特徴

重症度	人数(%)	発病から受診までの期間
軽症	14人(34%)	平均10ヶ月
中等症	23人(56%)	平均18ヶ月
重症	4人(10%)	平均29ヶ月

軽症:簡易認知機能検査(MMSE)20点以上,
中等症:20点未満,重症:検査実施不能

なんと3分の2の患者さんでは認知症が疑われて3点セットを実施した時点で既に認知症が中等症以上に進行しておりました。そして、家族は約1年半前から患者さんの変化に気付いていました。すなわち、家族はうすうす気付いているし、風邪などで医師の診察も受けますが、3点セットを行うまで中等症の認知症とは診断されなかったのです。確かに、認知症は1-2年間見過ごされるようです。

次に、唯一の治療薬アリセプトはどの程度効果があるのでしょうか？効果が大きいのなら早期の治療に結びつく早期診断の重要性が増してきます。当院では、軽症から中等症のアルツハイマー病でアリセプト治療を行う患者さんについて定期的にアルツハイマー病評価尺度(ADAS-cog)を測定することにより治療効果を判定しています。現在治療中の患者さん7人の経過をグラフで見てみましょう。



点線はアルツハイマー病患者の自然経過を示します。未治療の患者では評価尺度の得点が1年間に約11点の割合で直線的に悪化することが分かっています。実線はアリセプト治療中の7人の得点経過です。得点が点線よりも上であればアリセプトの効果ありと判定することになります。この判定方法に従えば、7人中5人でアリセプトの効果がありました。そのうち3人は1年後でも悪化がなく、2人は治療前より得点が改善していました。この結果は正直に言って予想外のものでした。なぜなら、普段の診察で患者さんの認知機能の変化に気付くことはありませんでしたし、ご家族が症状や生活の

明らかな改善を実感することも無かったからです。しかしながら、患者さん自身はアリセプト服用後から認知症の自然経過の減速や停止、あるいは回復を実感しているのかもしれませんが、アリセプトに認知症の問題を全て解決する力はありませんが、グラフを見ると7人中3人に認知機能を1年間維持する効果が認められたことも事実です。したがって、絶対に必要とは言いきれませんが、全員が一度はアリセプト治療を試みる価値はあると思います。



NHKスペシャルで問われた、認知症が見過ごされる傾向はこの地域も例外ではありませんでした。アリセプト治療で病気の自然経過を減速や停止できる場合があるので、ご家族に認知症が疑われる時は3点セットを受けて早期に診断してもらうのがよいでしょう。現在市販の治療薬はアリセプトしかありませんが、今後新しいアルツハイマー病治療薬が次々に開発されてきます。新しい治療をいち早く受ける準備をする上でも、医学的に正確な診断を付けておくことは重要です。NHKが仰るとおり、家族の認知症を見過ごさないように努めましょう。

歳時記

野や山に草木が萌え、街にも花があふれる季節となりました。卵から孵った鳥や魚は日に日に大きくなります。初夏はあらゆる生き物が成長する季節。外へ出て、自然や人とふれ合い、成長のエネルギーを分けてもらいましょう。